

時事的な問題が扱われたためか、家族社会学、社会福祉学などの人口以外の専門家が多数来場し、活発な質疑応答が行われた。

また、10日午前の人口・労働力部会では皆川勇一教授（千葉大学）の司会のもとに以下の2報告がなされた。  
岩手県におけるコウホート出生力の分析……………盛岡大学 菊池芳樹  
配偶関係における年次別変動の社会的文化的要因……………中村学園大学 山本文夫  
（小島 宏記）

## 日本老年社会科学会第24回大会

日本老年社会科学会（会長：那須宗一中央大学教授）の第24回大会（会長：草間俊一岩手県立盛岡短期大学学長）が、昭和57年10月28日（木）・29日（金）の両日、盛岡市総合福祉センターにおいて開催された。今回の大会は、岩手県立盛岡短期大学を中心に運営され、2日間のプログラムを多方面にわたる報告と熱心な討論のうちに無事終了した。

人口高齢化の進行に対する関心の高さを反映して、今大会は一般報告として、A—疾病・障害、B—心理・精神医学、C—施設・処遇、D—社会・家族・農村、E—総合問題と多岐にわたる分科会が設けられ、また、「語りと老人—昔語りの心理療法—」、「農村の老人問題」の2つのシンポジウムが行われた。

本研究所からは、山口喜一・金子武治両技官の「地域別にみた老年人口の変動」（山口喜一報告）、中野英子技官の「結婚持続期間15年以上の世帯における子供の離脱——中高年世帯の形成過程に関する一視点——」および清水浩昭技官の「農村老人の居住形態」の3つの報告が行われたが、人口研究の立場からは、その他に、黒田俊夫教授（日大人口研）の「高齢化社会の基本的条件」、湯崎稔教授（広島大）の「地方政令都市の高齢化状況」などがあった。

今大会は特に農村の老人問題に関して、老人の生活実態に即したきめ細かい調査が報告され、東北の歴史的文化的な地域性をふまえた研究成果が参加者に感銘を与えた。

（中野英子記）